

肥後銀行のSDGs / 脱炭素の取り組み



肥後銀行経営企画部
サステナビリティ推進室
大野 隆

肥後銀行



九州フィナンシャルグループ



大野 隆

平成9年3月
九州大学
経済学部卒業

職歴

1997年4月～	福岡支店入行
2000年9月～	富士銀行（現みずほ銀行）出向
2002年10月～	肥銀キャピタル（投資・コンサル・M&A業務）
2017年4月～	経営企画部 企画役
2018年10月～	同 サステナビリティ推進室長（5年）
2024年4月～	地域振興部長

サステナビリティ分野での実績

- ・2018年のサステナビリティ推進室設置以降、全行的なSDGs/ESGの取り組みを推進。
- ・企業向けのSDGsコンサルティング業務を開発、これまでに200社超地元企業のSDGsの取り組み支援。
- ・熊本県「SDGsに積極的な県1位」「SDGs総合認知度第1位」、肥後銀行「くまもとSDGsアワード2022」大賞受賞

-
- 1. 肥後銀行のSDGs・脱炭素の取り組み**
 - 2. 地域と連携した取り組み**
 - 3. お客様向けの商品・サービス**
 - 4. 今後の展望**

1. 肥後銀行のSDGs・脱炭素の取り組み

【九州FG】グループのSDGs推進体制について

2018年に専門組織を設置。持続可能な社会の実現に向けた取り組みを強化。

SDGs/
ESG



2018年10月専門部署設置



九州フィナンシャルグループ
サステナビリティ統括室

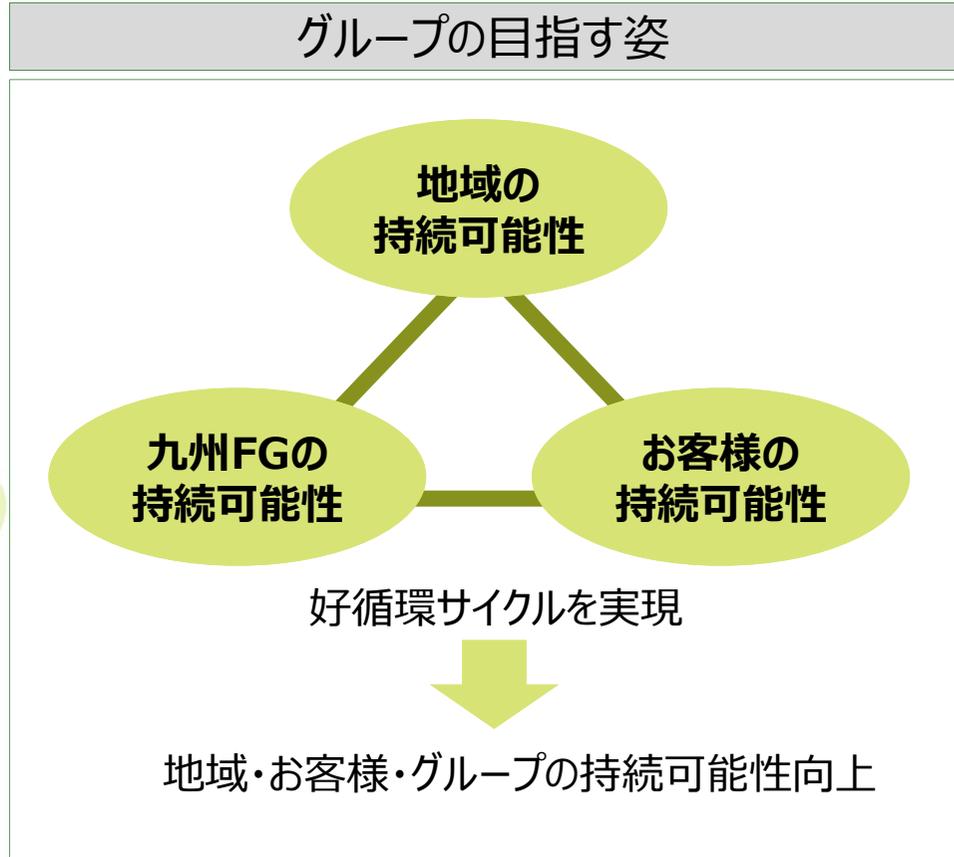


肥後銀行
サステナビリティ推進室



鹿児島銀行
サステナビリティ推進室

12名態勢



KFGカーボンニュートラル宣言

- 2019年12月 **熊本県**：「2050年熊本県内CO₂排出実質ゼロ」宣言
- 2020年10月 **政府**：首相所信表明演説「2050年カーボンニュートラル」宣言

2021年12月：2050年度までにカーボンニュートラル

目標の
前倒し

KFGカーボンニュートラル宣言（2023年3月公表）

温室効果ガス排出量の内、

Scope 1・2について、2030年度までにカーボンニュートラル達成

※Scope1：直接排出量（ガソリン、重油、ガス）、Scope2：間接排出量（電気）

脱炭素関連の取り組み（行内）

行内の意識醸成とCO₂排出量削減を両立させる施策を順次展開

全行的な取り組み

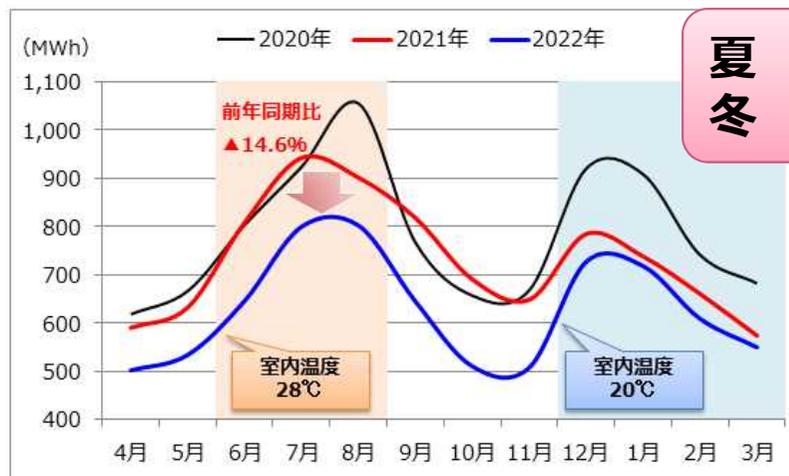
資料の電子化
(PDF化)



会議のペーパーレス化



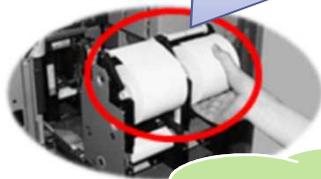
適切な空調運用の徹底



夏 : 28°C
冬 : 20°C

現場での取り組み

ジャーナル等
適正管理



伝票在庫の
適正管理



在庫の偏在解消

植樹活動（阿蘇「大観の森」）の継続



わくわく油田プロジェクトの全行展開



お客様・行員の協力下、家庭で使用した油を回収し、バイオディーゼル燃料に再生



2022年4月～
県内全店舗に回収スポット設置
これまでの3万ℓ以上回収

【回収スポット】



STEP1



お客様・行員が
家庭で使った廃油を持参

STEP2



営業店で回収

STEP3



バイオディーゼル燃料に！



バイオディーゼル燃料で
走る当行の移動店舗車
「ハモニカー」

生物多様性保全の取り組み

世界

2024年1月
アーリーアダプト

Task Force for Nature-Related Financial Disclosure
(自然関連財務情報開示タスクフォース)



国内

J B I B
(民間団体)



2022.4加入

30 by 30
アライアンス
(環境省)



2023.5加入

民間主導での生物多様性保全の貢献を目指すイニシアティブ。三井住友海上が代表理事を務める。

30by30目標達成に向け、保護地域の拡充とともに、保全されてきたエリアをOECDとして認定する取り組みを進めるため、環境省が中心となって発足

熊本



阿蘇：大観の森での植樹・水掛けの棚田での稲作



人吉：緑の流域治水プロジェクト



熊本市：生物多様性推進会議



2. 地域と連携した取り組み

熊本県内のSDGs未来都市、脱炭素先行地域



【SDGs未来都市とは】

地方創生SDGsの達成に向け、優れたSDGsの取組を提案する自治体を**内閣府が選定**し、その中で特に優れた先導的な取組を「自治体SDGsモデル事業」として選定して支援、成功事例の普及を促進。

熊本県内のSDGs未来都市（選定年）	
2018年	小国町
2019年	熊本市
2020年	水俣市
2021年	菊池市、山都町
2022年	八代市、上天草市、南阿蘇村
2023年	—

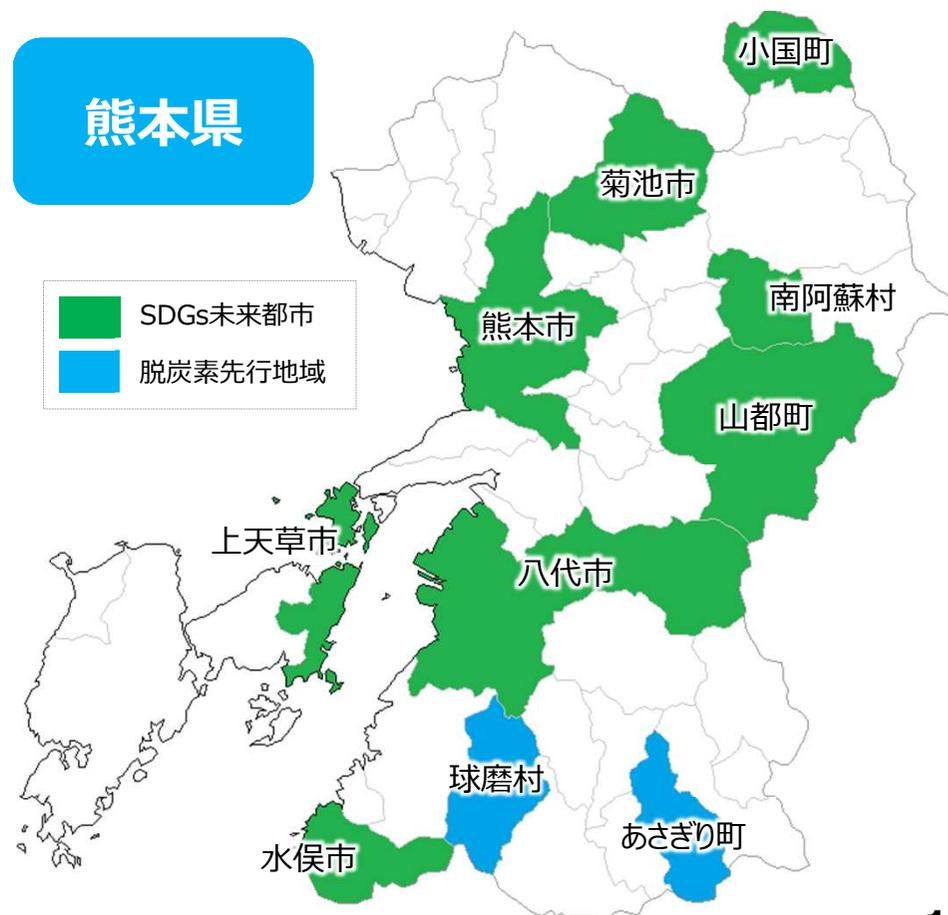
8市町村

【脱炭素先行地域とは】

2050年カーボンニュートラルに向けて、民生部門の電力消費に伴うCO₂排出の実質ゼロを実現し、運輸部門や熱利用等も含めたその他の温室効果ガス排出削減についても、日本全体の2030年度目標と整合する削減を地域特性に応じて実現する地域を**環境省が選定**。

熊本県内の脱炭素先行地域	
第1回	球磨村
第3回	あさぎり町
第4回	熊本県

当行も共同提案者



県内自治体との連携

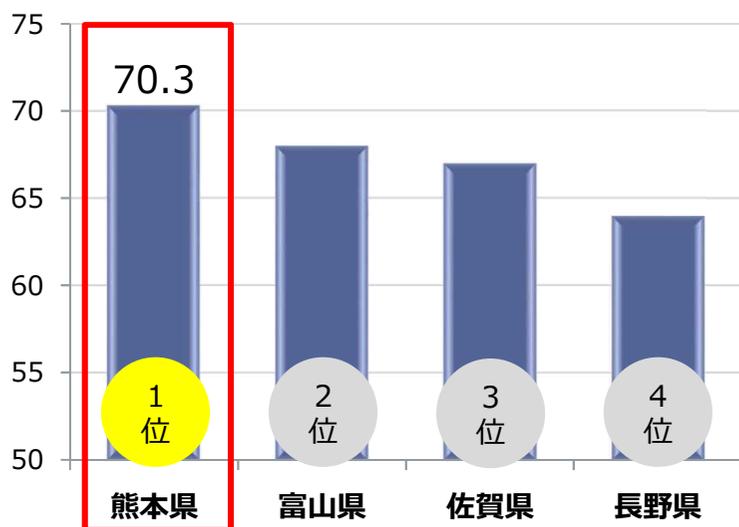


<p>熊本市 (2019年SDGs未来都市)</p>	<p>小国町 (2018年SDGs未来都市)</p>	<p>菊池市 (2021年SDGs未来都市)</p>
<p>2020年1月連携協定締結</p>	<p>2020年5月連携協定締結</p>	<p>2023年3月連携協定締結</p>
<p>南阿蘇村 (2022年SDGs未来都市)</p>	<p>上天草市 (2022年SDGs未来都市)</p>	<p>八代市 (2022年SDGs未来都市)</p>
<p>2023年11月連携協定締結</p>	<p>2023年12月連携協定締結</p>	<p>2022、2023年度SDGs業務受託</p>

県内自治体との連携を通じ、**SDGs**や**地域の脱炭素化**に向けた取組をご支援 12

(参考) SDGsに関する調査結果

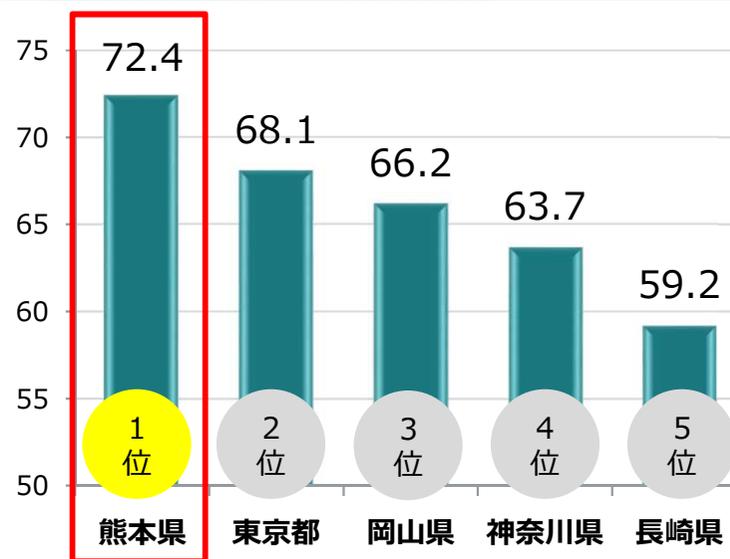
「SDGsに積極的な企業の割合」 全国ランキング (2023年)



(帝国データバンク「SDGsに関する企業の意識調査」)

熊本県 全国1位
(2021年 1位⇒2022年 3位)

ビジネスパーソンに聞いた SDGs総合認知度 (2022年)



(日経BP社調査、N=ビジネスパーソン23,239人)

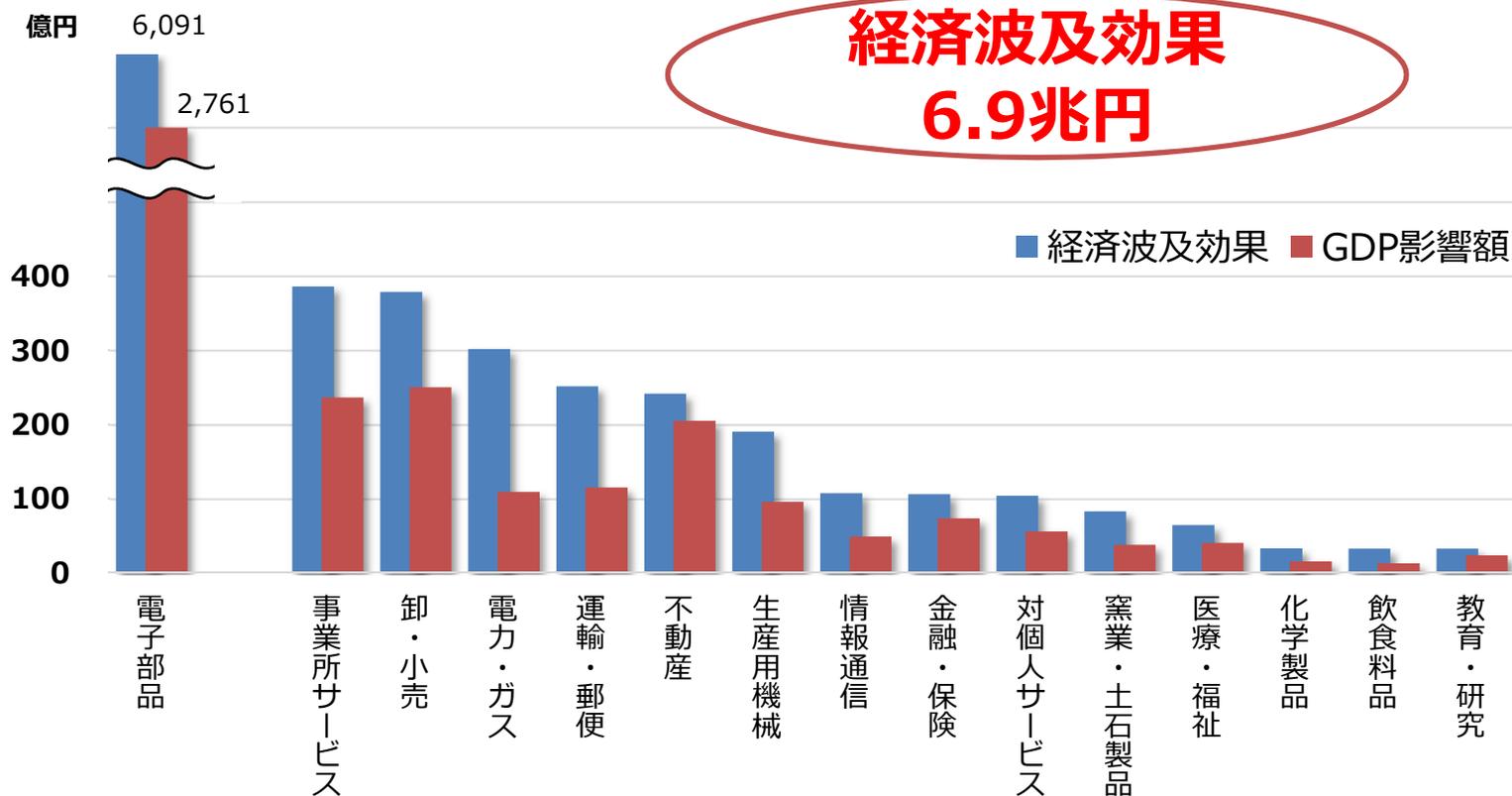
**「SDGs認知度」と「施策認知度」を
合わせた「SDGs総合認知度ランキング」**
熊本県72.4 全国1位

熊本の全国的な認知度は高まっており、
今後も取り組みが加速する事が予想される。

3. お客様向けの商品・サービス

TSMC進出による熊本県内各産業への波及効果 (推計)九州フィナンシャルグループ

▶ 半導体関連産業集積・**生産増加から派生する各産業への波及効果** ~ 幅広い業種に影響

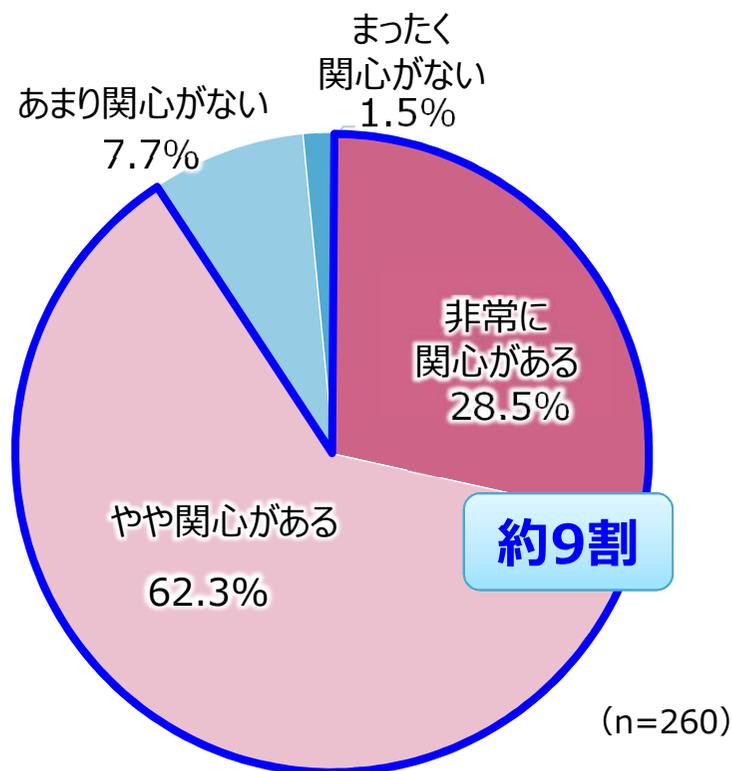


資料：2015年熊本県産業連関表

県内企業の脱炭素の取組み状況

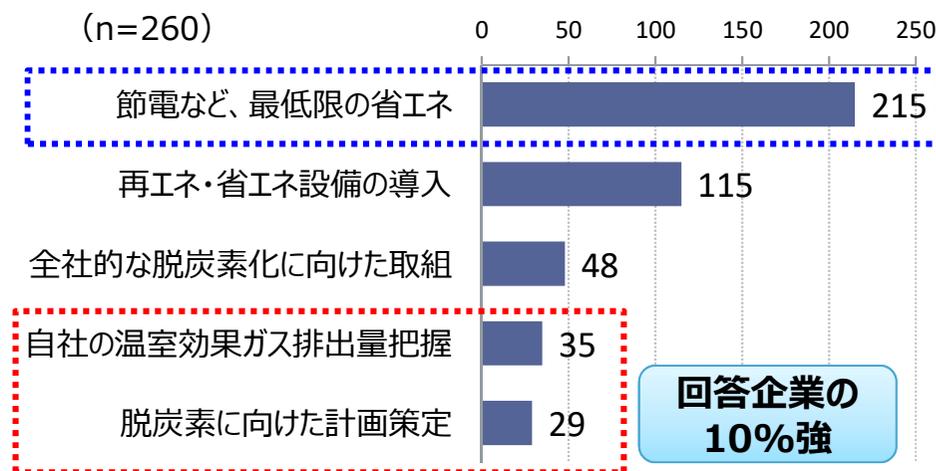
脱炭素への関心度

➤ 回答企業のうち、**約9割**が脱炭素に関心ありと回答。



脱炭素取組の実践状況

➤ 節電などに取り組む企業は多いが、**自社排出量の把握、計画の策定**についてはまだまだ進んでいない。



【脱炭素取組を実践する上での課題（抜粋）】

- 「人的余裕がない（44%）」
- 「本業が忙しく、手が回らない（35%）」
- 「エネルギー使用量の把握に手間がかかる（32%）」

（資料）環境省「カーボンニュートラルに向けた脱炭素事業に関するアンケート調査」

SDGsコンサルティングについて

2020年4月～

SDGsコンサルティング

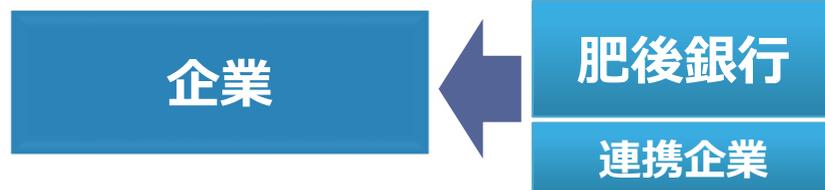
（コンサルティングの様子）



2020年4月、SDGsコンサルティングを開始。企業のサステナビリティ方針やアクションプランの策定等を支援。

2021年9月～

カーボンニュートラルコンサルティング



- Scope 1 :** 自社の直接排出（ガソリン、ガス、重油等 **化石燃料**）
- Scope 2 :** 他社から供給された**電気・熱・蒸気**の使用に伴う間接排出
- Scope 3 :** **商品・サービス**の購入や**サプライチェーン**全体の間接排出

【コンサルティング内容】

- ・サプライチェーンCO₂排出量算定支援
- ・目標設定、削減活動の具体的支援

当行の脱炭素関連支援メニュー

脱炭素経営に取り組む意義を

“知る”

- セミナー等への参加
- 環境関連サイト等を活用した情報収集

自社のCO₂排出量を

“測る”

- 自社およびサプライチェーン全体の排出量の計測・把握

目標達成に向けて

“減らす”

- 削減計画、目標の策定
- 達成に向けたビジネスマッチングや資金調達のご支援

+

社内外に取り組み状況を

“発信する”

- 会社HPでの情報開示のご支援
- 当行HP等でのご紹介
- 脱炭素関連の社内勉強会実施

カーボンニュートラルコンサルティング

- **セミナー、勉強会の企画・開催**
- 脱炭素関連情報の提供・発信

算定



- **サステナブルファイナンス**のご提案
- ビジネスマッチング先の紹介
- 事業会社との**連携による削減支援**

レポート



CO₂排出量算定システム「炭削くん」 概要



システム名	Zero-Carbon-System (通称：炭削くん) 
開発目的	CO ₂ 排出量の把握、見える可を実現するシステムをお客様にご活用頂くことでお客様、そして地域全体のカーボンニュートラル実現を目指すため
特徴	<ul style="list-style-type: none">・マルチデバイス対応（PC、スマートフォン等）・他のシステムと比較して低価格で利用可能・自社及びサプライチェーン全体の排出量算定可能 <p>2024年1月よりサービス提供予定</p>
主な機能	<p>電気、エネルギー等の各種使用量（請求書等）データをシステムに入力</p> <ol style="list-style-type: none">① 企業活動全体のCO₂排出量算定（Scope1,2,3）および可視化② 排出量削減目標の設定及び進捗管理③ 算定結果のレポート出力 <p>独自開発システムでは地方銀行初！</p>

サービス提供開始

自社のCO₂排出量を **算定・可視化!**

Zero-Carbon-System
たんさく **炭削くん**

肥後銀行では、お客様のCO₂排出量算定及び可視化をご支援するZero-Carbon-System、通称【炭削くん】を開発しました。エネルギーや電力使用量から、自社のCO₂排出量の算定が可能です。

脱炭素経営の第一歩をご支援します!

- 炭削くんの特徴
 - 排出量の算定が簡単
 - 自社排出量の可視化
 - Scope1~3 算定可能
 - PC・スマホOK マルチデバイス対応
- 炭削くんの機能
 - 電気、エネルギー等の各種使用量データをシステムに入力
 - ①企業活動全体のCO₂排出量算定* (Scope1,2,3) および可視化
 - ②排出量削減目標の設定及び進捗管理
 - ③算定結果のレポート出力

*算定方法については第三者認証を取得予定

システム利用料金
ご利用開始から1年間は**無料!**
2年目以降 月額 **2,200円**~ (税込)
※ご利用ユーザー数により異なります

SDGsの第一人者である
慶應義塾大学 蟹江教授コメント!

脱炭素はSDGs達成へのカギとなります。多くの目標達成に関わる取り組みだからです。これまで難しいとされていた、排出量の可視化。これを低価格で簡単に出来るようにした「炭削くん」、おススメです!

お申し込みはこちら
<https://zero-carbon-system.jp/register?bankCode=0182>

詳しくは当行ホームページ、もしくはお近くの営業店にお問い合わせください。

うるおいある未来のために。 肥後銀行

九州フィナンシャルグループ

【当行ホームページ】

うるおいある未来のために。

1月29日 正式リリース!

慶応大学蟹江教授もプロモーションに協力

CO₂排出量を算定・可視化
お申し込みはこちら!

Zero-Carbon-System
たんさく **炭削くん**

このスクリーンショットは、肥後銀行のホームページのスクリーンショットです。ページの上部には「うるおいある未来のために。」というキャッチフレーズと、熊本城の画像が配置されています。ナビゲーションメニューには「Zero-Carbon-System 炭削くん ログイン」が赤い枠で強調されています。また、下部には「CO₂排出量を算定・可視化 お申し込みはこちら!」というバナーがあり、これも赤い枠で囲まれています。さらに、中央には「1月29日 正式リリース!」という緑色の吹き出しがあり、下部には「慶応大学蟹江教授もプロモーションに協力」という青い吹き出しがあります。



運送業

今後は、システム機能を活用しながら、**車両ごとの排出量を算定、目標に対する進捗管理**をすると共に、**共同配送によるCO2排出量削減効果の検証・可視化**にも取り組んでいきたいと考えています。



製造業

これまでExcelでCO2排出量を管理していましたが、**「炭削くん」で算定・可視化**することでより一層、**脱炭素に向けた社内浸透**に活用していきたいと考えています。

サステナブルファイナンスの推進



九州フィナンシャルグループ

2030年までに累計1兆円のESG投融資を通じ、地域のSDGsを支援

NEW

トランジション ファイナンス

脱炭素社会の実現に向けて長期的な戦略に則り、着実な温室効果ガス削減の取組を行う企業へ融資

サステナビリティ・リンク・ローン

企業が社会・環境に関する野心的な目標設定、達成状況に応じて金利変動

ポジティブ・インパクト・ファイナンス

企業が経済・社会・環境にもたらすインパクトを評価機関が分析・評価。設定目標を継続してモニタリング

NEW

グリーンローン・ソーシャルローン

環境改善効果・社会課題解決を生み出すプロジェクトに取組む際に、効果を定量的に評価。（資金用途限定）

ひざんSDGsサポートローン

熊本県SDGs登録企業に対する金利優遇

ひざん環境サポートローン

環境配慮、脱炭素等に資する事業に対して金利優遇

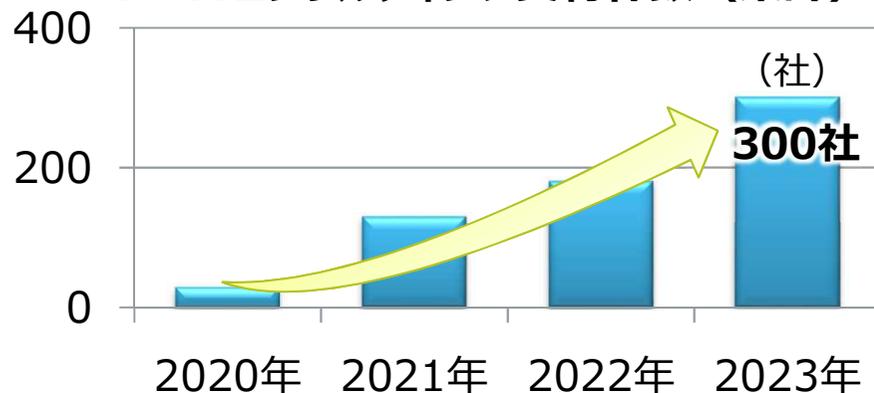
ひざんSDGs私募債

SDGsに資する寄付付きの私募債

外部機関の評価取得

コンサルティング及びサステナブルファイナンス実績

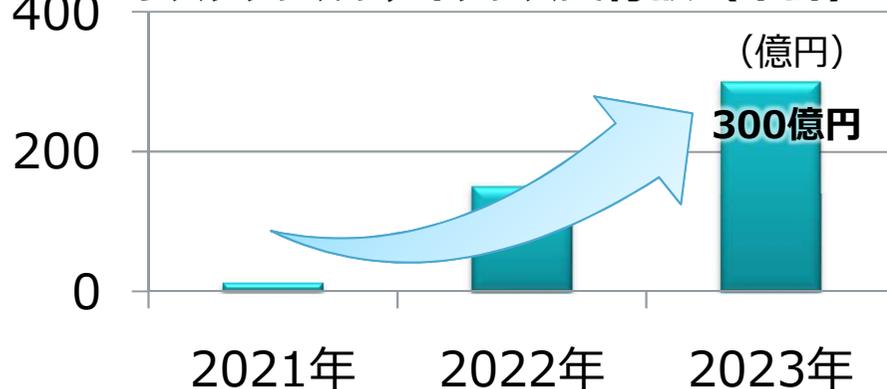
SDGsコンサルティング契約件数（累計）



作成をご支援したオリジナルロゴマーク（一部）



サステナブルファイナンス実行額（累計）



(コンサルの様子)

2021年よりコンサル企業も参加！

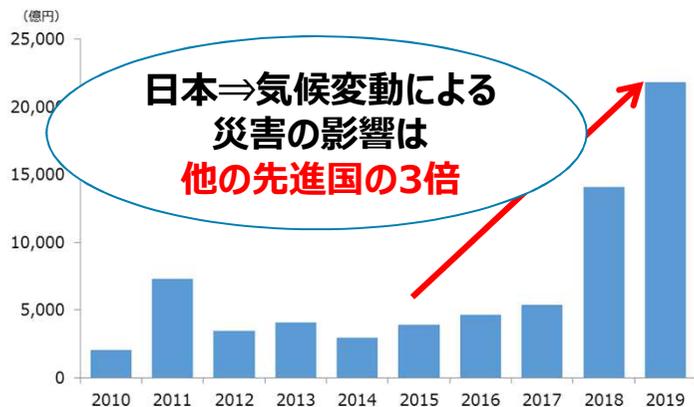


(阿蘇水掛けの棚田での田植え・稲刈り)

4. 今後の展望

国内外での気象災害の増加

【国内】 過去10年の津波以外の水害被害



令和2年7月熊本県南豪雨



当行支店に
乗上げた車

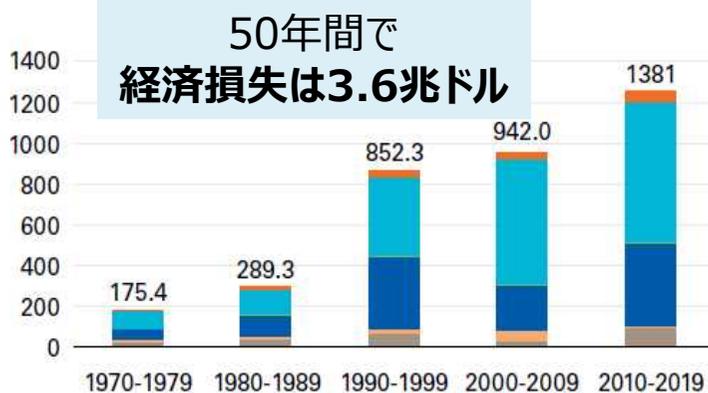
平成28年熊本地震



石垣が崩落した熊本城

【世界】 気象災害被害の変化

(c) Reported economic losses in US\$ billion

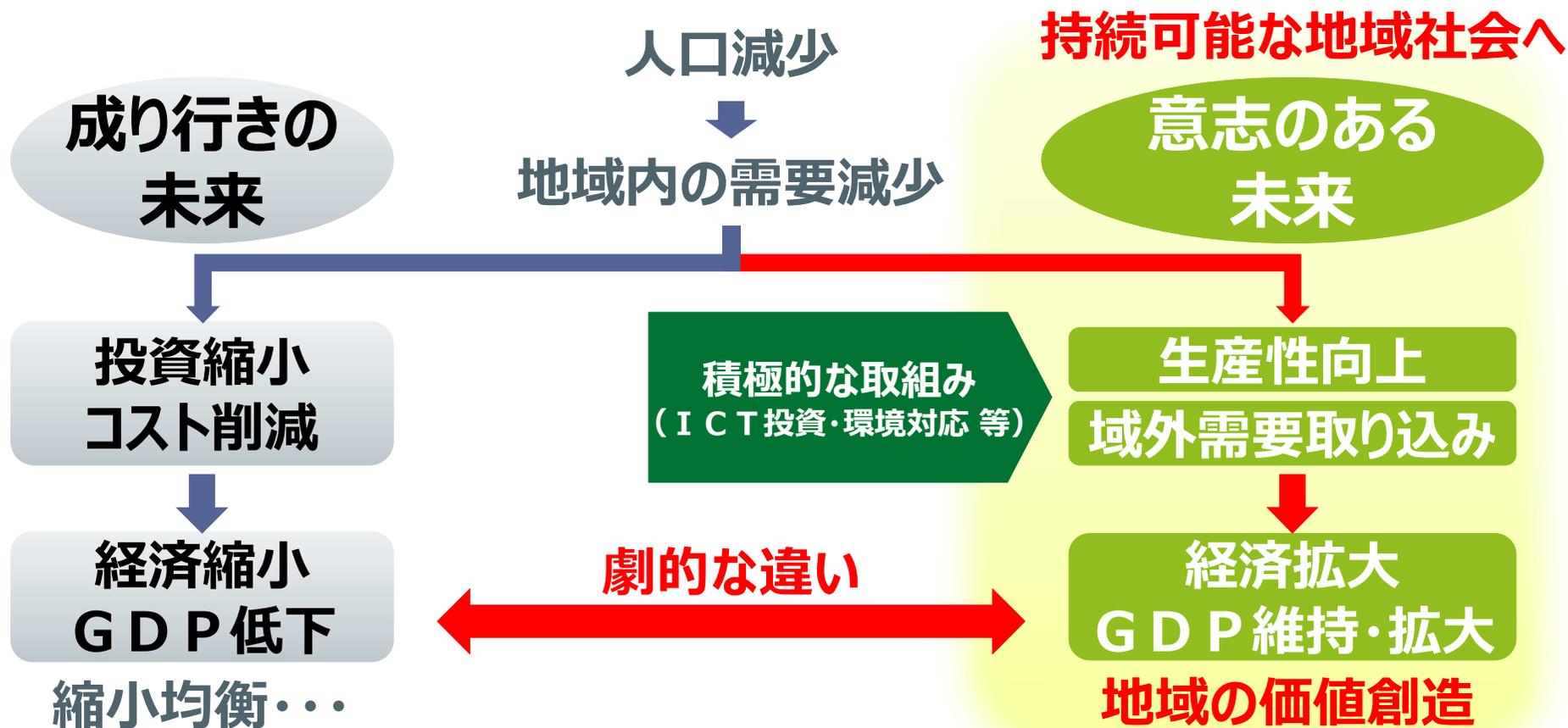


氾濫流による
落橋



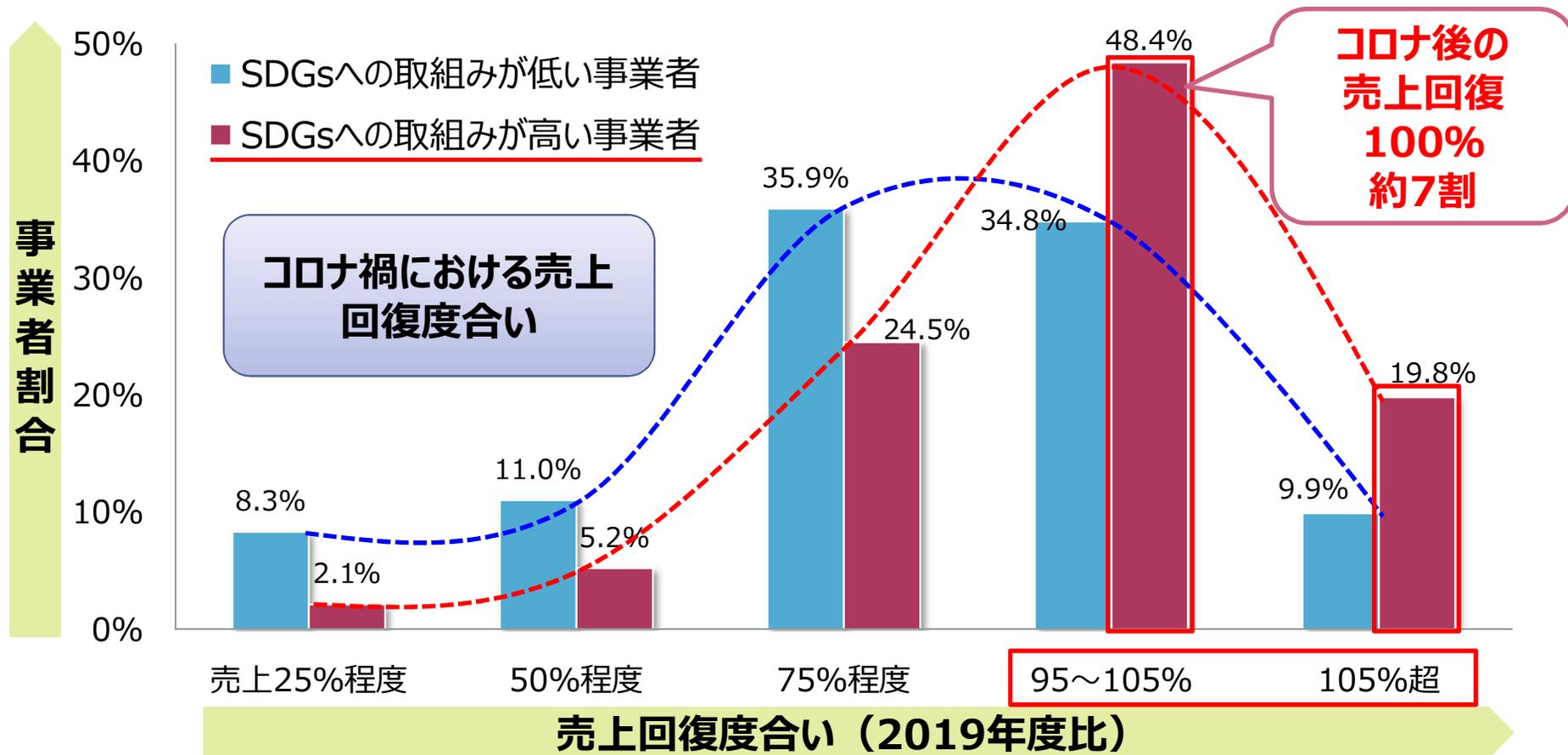
落橋した阿蘇大橋

「成り行きの未来」ではなく「意志のある未来」



その地域にどんな地方銀行があるかによって、その地方の未来は変わる！

SDGsに取り組む企業は非常時の業績回復も早い！



(資料) 地方経済総合研究所「事業者アンケート調査」

多様なステークホルダーとの連携強化

県内自治体、企業等と連携して、地域の持続可能性向上に貢献

当行グループ



協働による価値共創

地方経済総合研究所

九州電力

熊本日日新聞社

三井住友海上火災保険

県内企業 etc

＜連携施策＞

金融

✓ 脱炭素・再エネ導入

非金融

✓ SDGs普及啓発支援

✓ Jクレジット導入支援

✓ 環境保全活動（植樹・田植え等）

✓ 防災・減災

✓ 自治体・企業等との連携施策

（フードドライブ、衣料品リユースPJ等）

【県内45市町村】

SDGs未来都市
（内閣府選定先）

脱炭素先行地域
（採択先・申請予定先）

2050年CO₂排出
実質ゼロ表明自治体

【企業】

県内企業
当行取引先

地域価値の創造に向け、金融・非金融サービスを通じたお客様の支援を継続・強化

私達の存在意義＝パーパス

私たちは、お客様や地域の皆様とともに、
お客様の資産や事業、地域の産業や自然・文化を
育て、守り、引き継ぐことで、
地域の未来を創造していく為に存在しています

10年
ビジョン

お客様、地域、社員とともに、より良い未来を創造する
『地域価値共創グループ』への進化

企業価値の創造

社会の持続的発展への貢献（SDGs）

キーマッセージ

- **SDGsは「地域を持続可能にするための道しるべ」**
- 「地域連携」することで大きな成果を生む
「競争」ではなく**「共創」**が重要
- 企業も金融機関などすべてのステークホルダーが
「SDGs・脱炭素に関心を持ち、できることから取り組む」

ご清聴ありがとうございました

うるおいある未来のために。

